

# 移住者から見た飯山 ～飯山の魅力を探る～

飯山小学校 勝山 優子

## 1 はじめに

現在、日本の人口減少による少子高齢化は大きな社会問題の一つであり、「毎月人口移動調査結果に基づく推計人口」によると飯山市も平成 31 年 3 月には人口が 2 万人を割った。そんな中、飯山市は 2003 年に移住相談窓口を開設し、移住者の促進を図っている。令和 2 年度の移住者は 127 人と過去最高の人数を記録した。移住者が増加する要因として、飯山という地に魅力を感じ移住することも一つであると考え。

飯山に住む子ども達が、移住者を通して飯山の魅力を知ることと学びの一つになり得ると考え、調査を行うこととした。

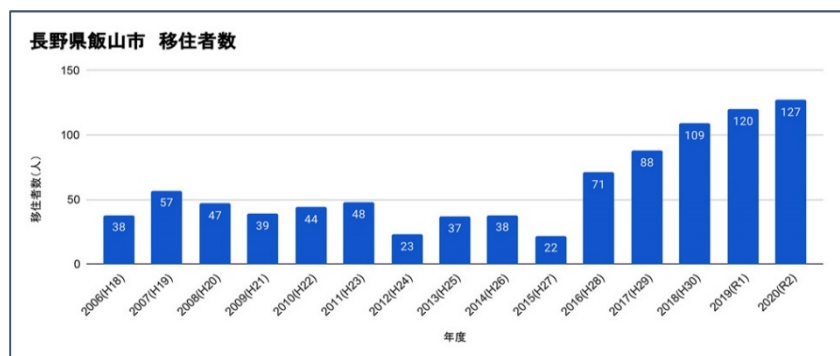
## 2 飯山市ふるさと回帰支援センターからみる飯山移住

飯山市の移住定住推進課の水野浩和さんにお話を伺った。飯山市では 2003 年 4 月に NPO 法人ふるさと回帰センターが設立されると、全国でも先駆けて「飯山市ふるさと回帰支援センター」が設立され、現在、センターの事務局は市の移住定住推進課が担っている。県内でも移住者が年間 100 人以上になる地域は少なく、飯山市は順調に増えている地域だという。その要因として、移住希望者への豊富な情報を分かりやすく提供していることが挙げられる。

以前は 60 代の移住者が多かったが、ここ数年は 30～40 代の家族世代が増えているという。きっかけの一つとして東日本大震災やリーマンショック等による社会動向の中で、実質的な豊かさを求めて首都圏から地方へと移住する割合が増えたそうだ。都會在住の移住希望者は、田舎そのものを求めており、飯山はその願いを充分にかなえる場所だという。都心からの利便性も大きな要因と考えがちだが、新幹線の認知度は意外と低く、下見をすることになって初めて新幹線の駅があることを知る人が多いという。つまり、飯山そのものに魅力を感じて移住してくるのだという。

市としては、移住者が増加することで地域の活力(地域貢献)となることを願っているが、水野さん自身としては、飯山に移住される方々が飯山での生活を楽しんでもらえればと願っている。その先に、本人の余力として地域貢献があれば、と述べていた。

本センターの現在の課題は、空き家バンクに登録する空き家が不足していることだと言う。市内に空き家はあるものの、高齢者が所有している割合が高く、先祖代々の土地を手放したくないという思いから、空き家提供につながらない。移住に大きく影響するものは住居と仕事であり、空き家を待つ移住希望者も多いということだった。



長野県飯山市 移住定住支援サイトより抜粋

### 3 移住者から見た飯山市

#### (1) 飯山の伝統に惹かれて

Aさんは京都から移住し、12年目になる。現在、飯山市における内山紙職人として在住している。Aさんのように県外からの内山紙職人は初めてであり、「自分がいることで、内山紙が蘇るきっかけになるかもしれない」という思いをもって内山紙と向き合っている。

Aさんは内山紙を使った数多くの作品も手掛けている。ハンドバックやアクセサリなど、現代に合う商品開発にも力を入れており、伝統的な内山紙の文化を未来に残そうと奮起している。

他地域からの移住者によって、いつまでも変わらない伝統を守る心と、伝統に根ざしながらも時代の変化を取り入れた外からの新たな視点を生かして、地域の特産物や伝統工芸を受け継いでいることは、この地域にとって持続可能な社会になりうる重要な役割を移住者が担っていると考えられる。



#### (2) 穏やかでホッとする

4人家族のBさんは大阪から移住してきた。お子さんの不登校をきっかけに移住を考えるようになった。少人数の学校で安心して通える場所を求め複数の県を探したが、なかなか条件に合う地域はなく、長野県に行きついた。長野県には以前からスノーボードで訪れており、スノーボー好きのご夫婦にとっても魅力ある場所だった。それと共に、市や学校の受け入れ態勢や支援体制が大変きめ細やかで、情報収集の段階から丁寧な対応をしてもらったことが大きな要因となった。

移住して4か月程経つが「飯山は穏やかでホッとする」とBさんは言う。何もないことが精神的に楽であり、開放感があるそうだ。今までは何でも買える環境だったが、不自由な環境が物事を色々と考えられるきっかけになったという。お子さんも移住してきて元気になった。学校にも少しずつ登校でき、先生方と信頼関係を結べていることも心強いと述べていた。ご主人の仕事も転職することなく、リモートという形で今までの仕事を飯山で行っている。

地域の方は大変温かく、お祭りなど地区に関わることに声をかけてくれたり、野菜をくれたりと親切にしてくれるという。Bさんは「私にとっては、本当に移住してきてよかった」と語ってくれたことが印象的だった。飯山は安心して暮らせる場所であること、それには安心できる環境要因に「人とのかわり」も大きいと感じた。

#### (3) 自然の豊かさと利便性

Cさんは海外での派遣契約が終わり、日本に帰国する機会に飯山への移住を考えた。元々北信地域の出身であり、以前から飯山にはなじみがあった。飯山市は近隣市町村に比べ、空き家バンク等についての手厚いサポートがあったことや、今後のお子さんの通学を考え、駅が近く JR 沿いである理由から飯山への移住を決めたという。飯山は自然が豊かで四季を楽しみながら子育てでき、四季折々の食べ物も楽しめることや、東京方面や新潟方面などへの利便性が高いことも魅力と話していた。今後、実際に暮らしていく中で除雪についての不安はあるものの、移住への期待感が大きいという。

### 4 終わりに

これからの飯山市を考えていく際に、移住者の視点が人口増加や地域活性化に向けた足掛かりの一つになることは十分に考えられる。今後、子ども達が飯山市を新たな視点で捉え、自らが飯山市の未来を考えていけるような教材化を目指していきたい。